

(様式-1)

栃木県公共事業事前評価・自己評価書 [県土整備部 道路事業]

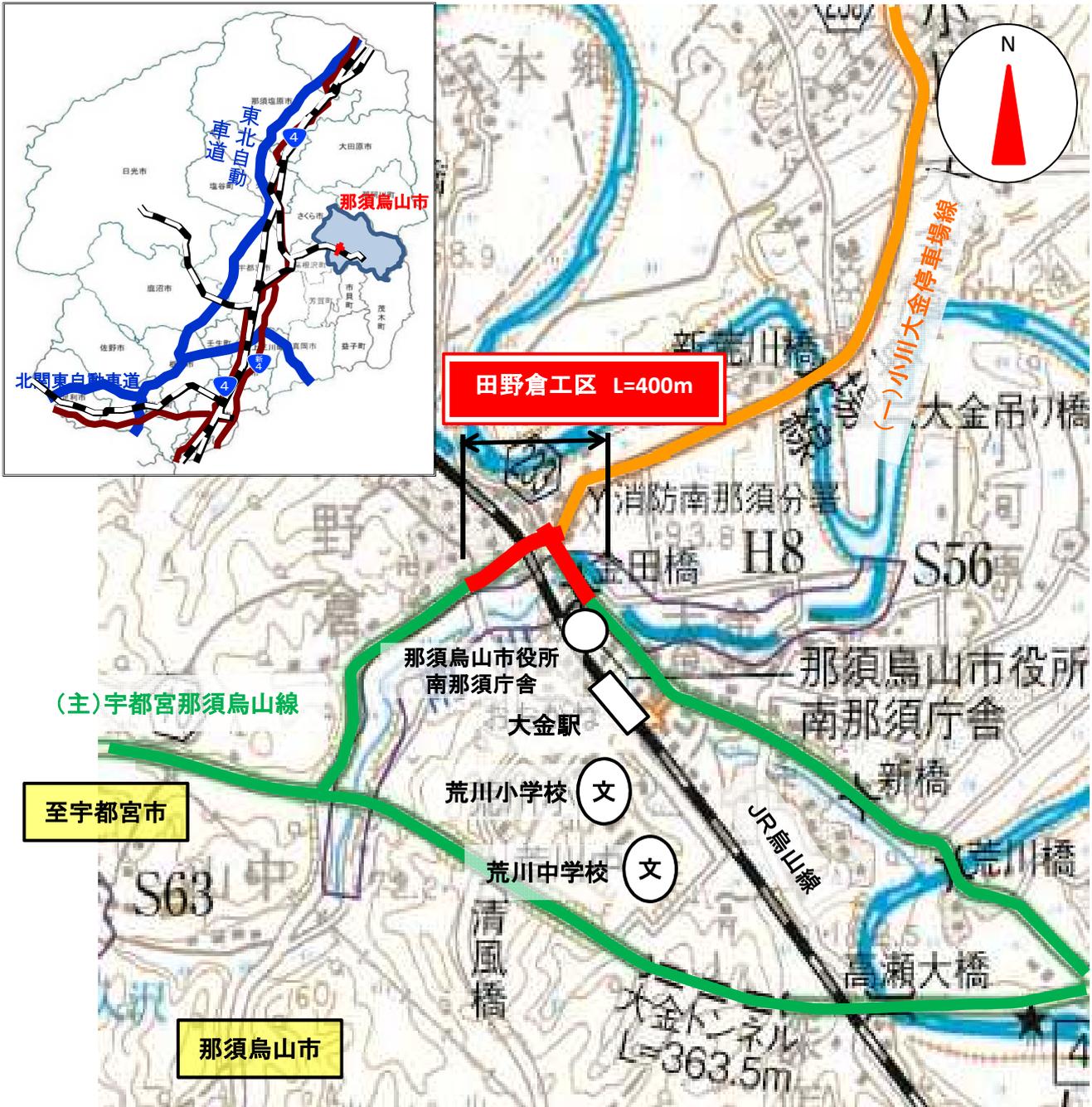
1/2

事業概要調書									
1 事業名	道路事業								
2 事業箇所	主要地方道宇都宮那須烏山線 那須烏山市 田野倉工区								
3 事業の概要	(1) 事業目的 <p>主要地方道宇都宮那須烏山線は、宇都宮市から那須烏山市に至る延長約 29 km の幹線道路であるが、本路線は、旧南那須町市街地内の旧道部であり、JR 烏山線大金駅にアクセスしているなど、地域の通勤通学等、日常生活を支える重要な路線である。</p> <p>本路線の JR 烏山線と交差するアンダー部は、幅員が狭く、歩道が未整備なため、円滑な通行に支障をきたしている。また、県道小川大金停車場線との田野倉交差点は、右折レーンが無いことから、朝夕に交通渋滞を引き起こしている。</p> <p>このため、JR 烏山線の交差部の幅員を確保するとともに、歩道を設置し、さらに田野倉交差点の改良を行うことにより、安全で円滑な通行を確保するものである。</p> <p>田野倉工区は以下を事業目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で円滑な通行の確保 ・現道の渋滞緩和 ・歩行者・自転車の交通安全確保 								
	(2) 事業内容 <p>【計画の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 烏山線とのアンダー部拡幅工事については、現道交通を確保しながらの拡幅は困難なことから、北側に新たにアンダー部を設置することとする。 <table border="1"> <tr> <td>全体延長 : 約 400m</td> <td>現況交通量 (H22 年) : 5,553 台/日</td> </tr> <tr> <td>道路幅員 : 10.0m</td> <td>計画交通量 (H42 年) : 6,000 台/日</td> </tr> <tr> <td>車線数 : 2 車線</td> <td>設計速度 : 40km/h</td> </tr> <tr> <td>道路区分 : 3 種 3 級</td> <td>構造物等 : BOX カルバート 1 基</td> </tr> </table>	全体延長 : 約 400m	現況交通量 (H22 年) : 5,553 台/日	道路幅員 : 10.0m	計画交通量 (H42 年) : 6,000 台/日	車線数 : 2 車線	設計速度 : 40km/h	道路区分 : 3 種 3 級	構造物等 : BOX カルバート 1 基
	全体延長 : 約 400m	現況交通量 (H22 年) : 5,553 台/日							
	道路幅員 : 10.0m	計画交通量 (H42 年) : 6,000 台/日							
	車線数 : 2 車線	設計速度 : 40km/h							
道路区分 : 3 種 3 級	構造物等 : BOX カルバート 1 基								
(3) 事業予定期間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>事 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 26 年度～平成 28 年度</td> <td rowspan="2">用地調査、用地取得 工事実施</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度～平成 31 年度</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	事 業 内 容	平成 26 年度～平成 28 年度	用地調査、用地取得 工事実施	平成 27 年度～平成 31 年度			
期 間	事 業 内 容								
平成 26 年度～平成 28 年度	用地調査、用地取得 工事実施								
平成 27 年度～平成 31 年度									
(4) 事業費及び内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業費</th> <th>約 16 億円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費内訳</td> <td> 工事費 : 約 10.0 億円 用地補償費 : 約 5.0 億円 測量設計費 : 約 1.0 億円 </td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td>国費 : 55%、県費 : 45%</td> </tr> </tbody> </table>	事業費	約 16 億円	事業費内訳	工事費 : 約 10.0 億円 用地補償費 : 約 5.0 億円 測量設計費 : 約 1.0 億円	財源内訳	国費 : 55%、県費 : 45%		
事業費	約 16 億円								
事業費内訳	工事費 : 約 10.0 億円 用地補償費 : 約 5.0 億円 測量設計費 : 約 1.0 億円								
財源内訳	国費 : 55%、県費 : 45%								
(5) 事業発案の経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ・本工区は、JR アンダー部が幅員狭小であり、田野倉交差点に右折レーンが無いことから、車両の円滑な通行と自転車・歩行者の安全に支障をきたしている。 ・那須烏山市からの早期整備要望 								
4 県計画への位置付け	栃木県の道路・交通分野の将来構想である「人にやさしい県土 60 分構想」に基づき、都市内における拠点を結ぶとともに地域の生活を支える安全で快適な道路づくりを目指す。								
5 他計画・他事業との関連	特になし								
所轄部課名	県土整備部 道路整備課								

別添図面・・・事業位置図

事業評価調書	
事業名	道路事業
1 事業の必要性	<p>本路線は、那須烏山市の日常の生活を支える重要な路線であるにもかかわらず、田野倉地区の現状は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JR烏山線交差部は、幅員5.0mと狭く、大型車とのすれ違いが困難なことに加え、県道小川大金停車場線との交差点は右折レーンがなく、朝夕を中心に渋滞が発生している。さらに当該工区内は、荒川小学校の通学路に指定されているにもかかわらず、歩道が未整備である。
2 事業の適時性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度実施した小学校通学路の緊急合同点検において、田野倉交差点が要対策箇所と位置付けられたため、早急な整備が必要である。
3 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現道は、JR烏山線とのアンダー一部を含む区間であり、現道交通を確保しながらの拡幅は困難なことから、北側に新たな道路を整備することとした。
4 事業手法の適切性(県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要地方道宇都宮那須烏山線の道路管理者である県が事業を実施する。
5 事業により予想される効果及び影響	<p>○経済効果 (完成2車線)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 費用便益比(B/C) 1.3 ・ 総便益(B) 17.3億円 <ul style="list-style-type: none"> ※ 総便益は、供用後50年間の効果を金銭に換算したもので、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少効果等の合計である。 ・ 費用(C) 13.5億円 <ul style="list-style-type: none"> ※ 費用は、建設費に供用後50年間の維持管理費を加算している。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全で円滑な通行の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路幅員をW5.0mからW10.0mへ拡幅し、JRのアンダー一部でのすれ違い困難が解消されることから、安全で円滑な通行が確保できる。 計画値：最小幅員 10.0m、最小曲線半径 100m 2. 現道の渋滞緩和 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交差点を整備することで右折レーンが設置されるとともに、三現示であった信号が二現示になることから渋滞緩和が図られる。また、高根沢方面～那珂川町(旧小川町)方面への所要時間が現況に比べて約2.4分短縮される。 3. 歩行者・自転車の交通安全確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道を設置することで、荒川小中学校の通学児童等の歩行者・自転車の交通安全が確保できる。
6 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共工事コスト縮減行動計画 2010(平成22年7月栃木県)に基づき、設計・施工各段階においてコスト縮減を検討する。

(主)宇都宮那須烏山線 田野倉 位置図



【標準横断面図】

